

アカウミガメ 初のふ化確認

洲本・大浜海岸



NEXTに動画 無事にふ化が確認されたアカウミガメ＝8日午後、洲本市の大浜海岸

洲本市の大浜海岸に産み落とされた絶滅危惧種アカウミガメの卵

がふ化したことが確認された。市街地に近い同海岸での産卵確認は

21年ぶり、ふ化の確認は初めて。8日夜にも多数の子ガメが海に向

かった。

産卵は6月1日夜。以後、兵庫県と市が産卵場所を柵で囲い、立ち入りを禁止した。

ふ化後は砂の中で4日ほど過ごし、産卵からおおむね60日前後で地上に出る。日数はほぼ気温で決まるが、産卵後は多雨で気温が上がらず、調査研究に取り組むNPO法人「日本ウミガメ協議会」（大阪府枚方市）は7月下旬、地上に出る「脱出」を8月11日以降と予想していた。

しかし、最近は高温の日が続く、8日午前6時すぎ、市職員が体長約6・5センチの子ガメ2匹を砂浜で発見。午後2時ごろに環境省自然公園指導員の生嶋史朗さんが柵内外でさらに2匹を見つけたほか、夜間にも続々と子ガメが脱出した。生嶋さんは「にぎやかなビーチで無事にふ化したのはめでたい」と目を細める。

（上杉順子）